

子育て世代の皆さんを応援します!

特集 部局長インタビュー! 見開きの特集ページをご覧ください。

Let'sイクメン! 子育て世代の皆さんを応援します! //

平成26年4月から育児休業取得時に支給される育児休業給付金の支給率が引き上げられました。

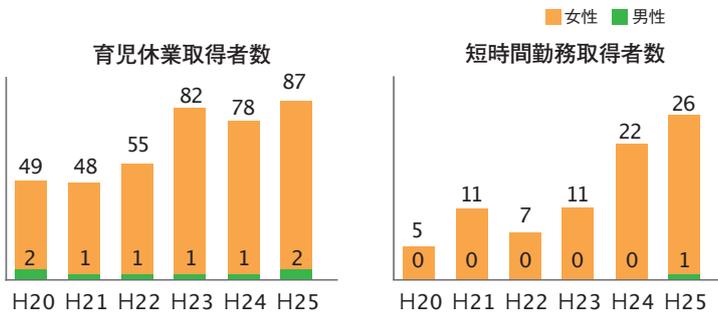
育児休業開始時から180日目までは休業開始前の賃金の67%が支給され、181日目からは、従来通り休業開始前の賃金の50%が支給されます。

本学の育児休業取得者は年々増加していますが、男性の取得者はまだまだ少ない状況です。また、育児における短時間勤務は、昨年男性で初めて取得された方がいました。短時間勤務も男女関係なく取得できる制度です。これを機にパパが育児休業や短時間勤務を利用して、より積極的に育児に参加してみませんか。

〈取得例〉ママが6か月間取得後、パパが6か月間取得。
合わせて1歳2か月まで67%給付(手取り賃金の約8割)。
*パパ・ママ育児プラス制度を利用した場合



信州大学の育児休業・短時間勤務取得者数



さらに! 男性限定で取得できる休暇(対象:常勤職員)

- 【配偶者出産付添休暇】
配偶者が出産する場合2日の範囲で有給の休暇が取得できます。
- 【育児参加休暇】
配偶者の出産前後、又は小学校就学前のこどもの養育のために5日の範囲で有給の休暇が取得できます。

ウェブサイトに情報を掲載しました!

各キャンパスがある松本市、長野市、上田市、南箕輪村と周辺市町村の育児支援(病児・病後児保育、一時保育、放課後児童クラブ等)の情報をアップしました。本学で行う育児支援と合わせてご利用下さい。

■ アドレス
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/child/>



ご存知ですか? 信州大学の育児支援

- ベビーシッター育児支援事業割引券の配付
本学の教職員が、ベビーシッターによる家庭内保育サービス等を利用する際に料金の一部を助成する「ベビーシッター育児支援事業割引券」を配付しています。
- センター試験時における一時保育
毎年大学入試センター試験時に松本キャンパス、長野(教育)キャンパスにて一時保育をしています。平成25年は延べ19名、平成26年は延べ17名のお子さんをお預かりしました。

● 研究補助者制度
本学の研究者が、出産・子育てや介護などのライフイベントと研究活動が両立できるよう、研究補助者を配置する制度です。

● 育児・介護のためのガイドブック 改訂版(平成26年3月発行)
仕事と育児・介護の両立のために学内制度や規程が分かりやすく記載されています。また、市町村の情報やキャンパス周辺の子育て・介護お役立ちマップつきです。

▶ 詳しい情報は男女共同参画推進室サイト
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>



特集

部局長インタビュー

「これからの男女共同参画」について

平成23年度から始まった女性研究者研究活動支援事業を振り返ると共に、今後の男女共同参画推進の課題について、松岡英子男女共同参画推進室長が各部局長にインタビューをしました。

インタビュー全文はスフレのウェブサイトに掲載します。<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/sufre/>

1 部局内における男女共同参画について 2 これからの課題等について

人文学部



吉田 正明
人文学部長

1 男女共同参画の取組が始まってから3人の女性教員が増え、比率は20%になりました。人文学部は少人数ですし、男女とか職種も関係なく、昇進人事も全く平等です。また事務系職員を含めて、お互いを理解しながら一緒に同じ職場で仲良くやりましょうという和気あいあいとした雰囲気があると思います。

2 男女に関わらず育児支援や介護支援等、働きやすい職場環境のためには、まだ整備が必要な面もありますが、これからは管理職や、副学長、理事など、どこにも女性が登用されるような流れに意識改革を含め、なっていけばいいかなと期待しています。

教育学部



平野 吉直
教育学部長

1 これまでは女性限定公募というのが、それぞれの領域の中で難しかったこともありましたが、今後は積極的に取り組んでいくつもりです。日本の社会が活性化していくためには、元気な女性の活躍できる場がどれだけ広がるかは大きいと思います。教育学部は女子学生も半数を占め、元気がありますので、有能な女性が社会で活躍できるよう、学生を指導する教員に関しても男女共同参画を推進していくつもりです。

2 附属学校園を含め教育学部における管理職の女性比率はあまり高いとは言えません。これからは女性もたくさん関わっていただいて声が反映できる職場としたいです。そのためには意識改革が必要だと思います。また男性の育児支援や様々な要望に関して柔軟に検討するため、意見の出やすい雰囲気を作り出すためにも意識啓発は必要であると考えています。

経済学部



徳井 丞次
経済学部長

1 女性教員比率向上には今後も部局として真摯に取り組んでいきます。日本社会全体の観点に立っても、今後30年間に予想される人口減少を乗り切る方策としては、女性が一層社会で活躍することが期待されています。女子学生にとっては、大学の中で数多くの女性が活躍している姿を目にすることが、何よりの刺激と励みになるはずですが、経済学部は女性教員が活躍している部局だと思いますが、

今後はより一層活躍していることでしょう。

2 女性研究者が公募に応募してくれるには、大学が立地している地域としての魅力も大切だと思っています。また、国が子育て支援に優良な実績のある事業所を認定する「くるみんマーク」の取得を目指すというのはわかりやすい目標ですし、女性研究者の応募を増やす一助にもなると思います。

理学部



尾関 寿美男
理学部長

1 理学部は女子学生が少なく、女性教員も少ない状況です。先日のオープンキャンパスでも半数ほどは女子高校生が来ますが、入学する女子学生は少ないです。女性教員に関しては公募をしても応募者は少なく、ゼロであったことがしばしばです。理学部は子ども向けのプロジェクト等には、積極的に社会貢献をしてきたので、男女共同参画のような取組には理解があると思います。現在女性教員を採用できる枠

が多いというわけではないですが、何らかの働きかけをして、女性を積極的に採るように考えたいです。

2 教員向けの支援として、これからは男性教員の子育て支援が必要だと思います。あとは、学生向け、学生目線の支援が抜けていると思います。教員の支援は最終的には、学生支援につながると思いますので重要だと思います。

医学部



池田 修一
医学部長

1 女性医師は30代前半くらいまでは一定数います。そこから上の教員、研究者となると女性が急に減ってしまう。このような状況は十分なサポート体制がないという国全体の問題もあると思います。医学部では勤務形態、保育園の設備等女性の働きやすさに考慮してきました。研究の場である大学は女性に向いていると思いますので、積極的に教育、研究、診療に参加してほしいと思います。

2 医学教育センターや、地域の医学教育に関する場面は、女性が相対的にやりやすい仕事ですし、積極的に女性医師を登用していくと考えています。また診療には女性医師の役割は大きいと思います。医学、医療に全身全霊でぶつかっていく意思を持った女性を教育し、採用していくことに尽力したいと思います。

工学部



大石 修治
工学部長

1 女子学生の比率は、現在1割ぐらいです。建築学科をはじめ女子学生の比率は年々上がってきています。事務系・技術系の職員、教員、学生と女性の数は確実に増えました。教育、研究に携わる全体が男女共同参画の意識になったと思います。これからも信州の地の利や魅力をアピールし、多くの女子学生や教員に信州大学に来てもらいたいです。

2 工学部では校舎の耐震工事に伴い、パウダールームをつくるなど、女子学生に対する設備の準備を進めてきましたが、女子寮がないなどまだ十分とは言えません。また育休の代替教員等の派遣や教員公募の際の魅力的な情報発信など、男女共同参画推進室からの支援をお願いしたいと思います。

農学部



中村 宗一郎
農学部長

1 男女共同参画推進の取組の中で、この2年間で女性限定公募をし、女性教員が2名増えました。学生にも好評で研究業績も上げていただき、雰囲気も随分よくなりました。これからの目標としては女子学生も4割いますし、女性教員比率を1割は超えたい。一旦流れができればおそらく自動的に増えると思います。

2 若い方が増えたので、育児支援が課題です。隔地学部であり、周りにないロケーションも課題の一つです。本学部でご家庭をつくらただけるような、クオリティー・オブ・ライフの向上と、働きやすい職場を目指したいです。

繊維学部



濱田 州博
繊維学部長

1 繊維学部では男女共同参画推進前からテニユアトラックの事業を行っており、その中で国際公募をして女性を採用しました。繊維という分野的にもまだ日本では博士課程に進む女性が少なく、女性限定公募や様々な努力をしています。応募や問い合わせは海外からが多い状況です。現時点では、若い人を育てて、女性を増やしていくことが、将来的に日本のためになると思います。

2 学部内は女子学生が25%~30%を占めますし、女性教員を増やす努力はし続けるつもりです。まずは女性教員の比率を現在の3%から5%にするのを目標としています。着任した方のほとんどは長く勤めていただいていますので、本学部は働きやすい環境であるとは思っていますが、さらに働きやすい環境づくりは必要だと思っています。

全学教育機構



村上 好成
全学教育機構長

1 全学教育機構の全体が女性を採用してあたり前という雰囲気があります。この2年間は女性を中心に採用しています。女性限定公募をする以前から、女性の採用に積極的に取り組んでおり、自然科学系では教養部時代から初の女性教員の採用もありました。私の妻が研究者であり、宮城県と長野県で互いの研究と子育ての両立をしてきたので、男女共同参画については当たり前である

という気持ちがあります。

2 女性教員が増え、結婚・出産という過程での支援として保育園の延長保育や病児保育は必要だと思います。またこれからは男性がどういう意識を持つかといった教育をどうしていくかです。

女性教員比率

	H23.5 教員現員			H26.5 教員現員		
	男女総数	女性	女性比率	男女総数	女性	女性比率
学長・理事・副学長	10	0	0.0	12	0	0.0
人文科学系	44	6	13.6	44	9	20.5
教育学系	97	15	15.5	90	15	16.7
社会科学系	53	6	11.3	48	8	16.7
総合人間科学系(全学教育機構)	48	8	16.7	48	12	25.0
理学系	66	4	6.1	69	4	5.8
工学系	135	5	3.7	131	7	5.3
農学系	69	2	2.9	73	5	6.9
繊維学系	92	0	0.0	96	3	3.1
医学系(医学科)	152	22	14.5	167	27	16.2
保健学系(保健学科)	60	28	46.7	56	27	48.2
医学系(附属病院)	167	26	15.6	181	24	13.3
学内共同教育研究実施等	55	3	5.5	38	6	15.8
合計	1,048	125	11.9	1,053	147	14.0

お忙しい中、お話を聞かせていただきありがとうございます。各部署のご事情はありますが、今後とも女性教員の採用や登用にご尽力いただけたらと、次の展望が開けてきました。詳しいインタビューの内容はウェブサイトに掲載しますので、ご覧ください。



松岡 英子
男女共同参画推進室長

※教員現員は承継教員+承継外教員
※学内共同教育研究施設等の承継教員は所属各学系から区別し、承継外教員と合わせて当該欄に計上している。

教育学部オープンキャンパスでの活動報告

今年も男女共同参画推進室では、7月20日(日)に行われた教育学部のオープンキャンパスにおいて、男女共同参画についての展示、ビデオ上映、交流会を実施しました。交流会には、高校生7名の他、本学教員2名と学生3名も参加し、長野県内の公立学校の女性教員比率が低いことなどの男女共同参画の話から、キャンパスライフまで幅広く話し合いました。



◀交流会の様子



▲入口

長野県短期大学にて講演が行われました

7月7日(月)に長野県短期大学において、長野市と高等教育機関との連携事業の一環として、松岡英子男女共同参画推進室長が「男女共同参画を考える」をテーマに講演をしました。当日は180名の学生が受講し、熱心に聴講しました。



▲講演の様子

学生からの感想

・ Gender Gap が日本は世界中で105位ということに驚きました。実際に過ごしていて男女格差をそんなに感じたことがないからです。先進国の中では低いということなので、この問題に積極的に取り組んで順位を上げてほしいです。



◀当日の様子

・ 働きたい女性への支援はとても大切なことだと思いました。それと同時に、法の整備や男性に対することも考えていかなければならないと思いました。

平成26年度(10月～3月期) 研究補助者制度利用者決定のお知らせ

厳正な審査の上、利用者を決定しました。

●選考結果● 利用者14名(女性13名・男性1名)

研究補助者制度とは

本学の研究者が、出産・子育て又は介護と研究の両立ができるよう支援するために、研究補助者を配置する制度です。研究補助者となる学生は、ロールモデルとして研究者を身近に感じることができ、また自らのキャリアパスへとつながり、双方にメリットがあります。

Nagano Girls' Seminar in 工学部

7月26日(土)工学部においてオープンキャンパスが行われ、その中で女子学生によるNagano Girls' Seminarと題する企画がありました。当日は女子高校生や保護者が50数名参加され、女子学生のプレゼンを聞いた後、大学生活や受験などフリートークで盛り上がりました。秋のオープンキャンパス(10月18日)でも、実施します!



女子学生のアラカル	11:00	11:30	13:00	14:00	15:00
	売店体験 お菓子やパン、飲み物も充実しています	Nagano Girls' Seminar 工学部の女子学生と学生生活や将来について話してみよう! 飲食もOK	学科ガイダンス 気になる学科のガイダンスで説明を聞こう	学科見学ツアー 気になる学科の見学ツアーに参加して大学の中を歩いてみよう	図書館 図書館に立ち寄ってみよう。何かイベントやっているかも?

飯山市人権同和・企業人権教育講座

9月5日(金)飯山市の人権同和・企業人権教育講座で、松岡英子男女共同参画推進室長が「男女の多様性を生かし尊重する社会をめざして」というテーマで、飯山市職員、公立学校教員、企業の方を対象に講演を行いました。当日はおよそ140名が参加し、男女共同参画に対する関心の高さが伺われました。

出席者の感想

・このような講演や活動によって、もっともっと女性が活躍できる様になったらいいと思います。長野県のレベルが全国レベルに比べて、かなり低い事はかなりショックなお話でした。自分のレベルあげていける様考えていきたいと思いました。(40代女性)

・ポジティブアクションをある程度取り入れて行く事は必要であると思います。社会・組織を活性化させるための取り組みは必要であると思います。(50代男性)

・男女の違う所と、共通して変えられる所が分かって良かったです。だからこそ尊重できる部分もあるんだと思いました。思い込みだけではなく、変えようとする気持ちが大切だと思う。(50代女性)



お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進室 (SuFRé)

松本分室
(総務部人事課内)

〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL 0263-37-2167 内線 811-2127 FAX 0263-37-3314

長野分室
(教育学部内)

〒380-8544 長野市西長野6-0
TEL/FAX 026-238-4048 内線 831-4048

開室時間

9:00 ~ 17:00 (月~金)
E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp

信州大学 スフレ

検索